

【第3報告】

震災復興と経営者—好まれる社会人とは

渡部 志朗

(株)山一地所 代表取締役会長

震災復興と経営者

私は山一地所の渡部と申します。

今日は、経営学部の鈴木好和教授から「震災復興と経営者」というテーマを与えられましたので、地震発生時、経営者としてどのように対応したのか、また、今後再び発生する可能性のある地震に対し、どのようにしたら防災・減災になるかをお話させていただきます。

最初に自己紹介をいたします。

私は、昭和17年生まれ 72歳になります。

昭和41年東北学院大学 経済学部経営学科を卒業。

卒業後は機械のメーカーで5年間働いた後、昭和46年に不動産業界に入り、昭和50年に一念発起して拳ひとつで不動産業を始めました。

写真3：講演する渡部会長



事業を始めてから今日まで40年、その間いろいろと苦労はありましたが一度も赤字になったことはなく順調に推移しています。

現在、当社の社員の中には東北学院大学卒業生は15名います。今後も意識して増やしていきたいと思っていますので、ご縁があればぜひ当社に入っていただけないかと思います。

なお、就活フェアを7月8日（水）午後1時から4時までアエル5階で開催しており、山一地所のブースを設けておりますので、おいでいただければ幸いです。

当日ご都合がつかなくても、当社にご興味があればいつでもお受けいたしますのでお問い合わせをいただきたいと思います。

改めて東日本大震災を確認します。

平成23年3月11日 午後2時26分

仙台沖東で発生しました。

マグニチュード 8 震度 7

平成27年5月31日現在では

死者：15,281人

行方不明：8,492人

避難者：震災直後のピーク時は40万人以上だったそうです。

4年たった2015年4月現在でも

219,618の人が、避難したままで、長期化しています。

住宅被害 全壊 129,479戸

半壊 256,077戸

そんな中で

不動産業の経営者として、震災復興に対しどのような働きをしたかをお話させていただきます。

地震発生二日後の3月13日に、われわれ不動産業者が加盟している

日本賃貸住宅管理協会、

全国賃貸管理ビジネス協会、

全国賃貸住宅経営者協会の3団体が緊急に協議し

自民党災害対策本部 谷垣本部長（当時自民党総裁）に災害救助法による応急仮設住宅を要望しました。

6日後の3月19日には「被災者救済のための民間賃貸住宅の公費借り上げ、そして応急仮設住宅を設置することに決議しました」との通知を頂きました。

それにしがつて

私たち不動産業者は、すぐさま避難者にマンションやアパートなど空いている部屋の提供に動ききました。

大手の大和ハウスさんや積水ハウスさんなどは、短期間でできるプレハブなどで仮設住宅の着工に入ったのです。

非常事態時の民間のアパートやマンションは「みなし仮設住宅」と言っても、家賃を国が負担してくれます。被災者が家賃の負担をすることはありません。

期間は、災害救助法によって、当初は3年間の予定でしたが2年延長し平成28年3月まで適用されます。

但し、身寄りのない老人や動けない人などの特定の方には、さらに延長することもあります。

行政によっては、対応はバラバラのようで、岩沼市と大崎市は5年で仮設住宅の供与を終了するそうです。

一律延長を必要とする市や町は、石巻市・塩釜市・気仙沼市・名取市・東松島市・女川町・南三陸町の5市2町

特定延長を必要とする市や町は、仙台市・多賀城市・亶理町・山元町・七ヶ浜町の2市3町

今、県や市は、被災者の移転先として災害復興公営住宅を盛んに作っております。「災害復興公営住宅」とは、国の予算で県や市が、民間が造った住まいを買い上げ、被災された方だけに住まわせる仕組みです。

宮城県全体での計画戸数は約16,000戸、今年の5月31日現在工事完了戸数は5,545戸 34.7%の進捗率です。

奥山仙台市長の話によると、阪神・淡路大震災では3年間で収束させる予定が、実際は16年かかったそうで、それからすると宮城県や仙台市は復興が順調に進んでいる方だといっていました。

山一地所の経営者として震災にどう対応したかお話しします

まず、社内に緊急対策本部を設置

当社ではマニュアルに沿って、社長が対策本部長となり、いろいろと指示を出しました。

- ・店内のお客様を安全なところに誘導
- ・アパートやマンションの入居者の安否の確認

物件の数も多く、またガソリンがない中でしたので、自転車を買い自転車でも走り回りました。

- ・社員や家族の安否確認
- ・マンションのエレベータは途中止まったりしたので、閉じ込められていないかどうかの点検
実際に閉じ込められた方もおりましたが、幸い大きな被災にはなりませんでした。
- ・建物の被災状況はみんなで手分けをして点検

緊急以外は計画を立て後日修理にかかることにしました。

- ・そのほか入居者対応班 銀行・家主対応班などを設け対応しました。
- ・日常生活対応班

地震後すぐさまお付き合いいただいている農家の方に、米を分けてもらい、おにぎりを作って社員および家族の方にまで支給をしました。隣のコンビニはすぐにシャッターを閉めましたが、当社のお客様だったので裏から入って特別に分けてもらいました。

また、ガスボンベも当社で工事をやってもらっているガスやさんに用意をしてもらい煮炊きには困ることはありませんでした。

今後の地震対応として

- ・自分の命は自分で守ることが原則だと思います。
今回の地震で残念だったのは、年老いたお父さんやお母さんを助けようと探しに行った方が津波に遭い亡くなりましたが、お父さんやお母さんはすでに避難して助かっていたそうです。地元では「てんでんこ」という言葉を使いますが、他の人のことは構わずお互いにてんでんに逃げようということです。そういったことを前もって打ち合わせをしていれば命を亡くさないで済んだかもしれません。
- ・事前にみんなで逃げる場所・集合する場所を決めておく。
- ・家族との連絡方法の確認 携帯電話はつながらないので公衆電話を使う。なお、PHSはOK 村井知事はPHSを使ったので迅速に連絡が取れたそうです。
- ・火元を消して火災を防ぐ ・出口を確保する
- ・むやみに外へ出ない ・水を確保しておく
- ・トイレにいたらドアを開けたままにする
- ・階段では動かない
- ・エレベータは使わない
- ・揺れが小さいからといって安心せずに避難する
- ・運転中は、あわてずに停車させる
- ・住んでいる地区の土地の履歴を調べる
以前は沼や沢、川や谷など自然の状況に合わせた町名を使用していましたので、昔はどういうところだったか推測がつかますが、今では新しい町名が多く何丁目何番などを使用しているため昔何だったのかはわかりません。
以前に沼や沢だったところは何年たっても液状化現象が起りやすく家が傾いたりします。
- ・家具などの転倒防止
- ・地震保険などへの加入
- ・防災グッズの用意
- ・住宅の耐震工事は被害を小さくするために大事なことです。

以上のことは当社ではマニュアル化しており社員全員に配布しております。

全社挙げて年一回避難訓練も行っています。

*私個人のことになりますが、東京に行くときは、いつ直下型の地震に襲われるかわからないので、身に付けているものがあります。

長い時間歩いても大丈夫なようなゴム底の靴、
LEDのペン型ライト、笛、ペットボトル2本など

このようなことを会社の社員や家族にも前もって周知徹底させております。

昨年は御嶽山の噴火がありました、

今年に入ってから、小笠原諸島でマグニチュード8.1の地震が発生

茨城県土浦では震度5弱の地震

口の永良部島では爆発的噴火

また、箱根山の火山活動、蔵王や浅間山などの火山活動があります。

また鹿児島島の桜島の噴火

週刊誌などによれば南海トラフ、東南海地震、関東直下型地震など

いつ発生してもおかしくないくらい日本全体が地殻変動しているそうです。

人間の力では天災地変を防ぐことはできませんが、被害を少なくすることはできるかもしれません。むかしから「天災は忘れたころにやってくる」といわれています。備えあれば憂いなしです。いつ来ても大丈夫なように準備をすることが大事です。

話は変わりますが、

私も東北学院大学卒の先輩として、参考になるかどうかはわかりませんが、日ごろ心がけていることをお話しいたします。

私が自分で仕事を始めてから40年になりますが、その間一度も赤字になることなく順調にこられました。先ほど、本学の先輩であるセキスイハウスの阿部社長やサンペンディング東北の加藤社長が、自分は運が良かったということを言われていましたが、私も運がいい方だったのかもしれませんが。

ただし「棚からぼた餅」のように何もしないで運が良かったということはありません。阿部社長も加藤社長も大変な努力の結果が今のお姿だと思います。

それでは、自分なりに日頃どのような考えで過ごしてきたか、お話をさせていただきます。いろんなことが考えられますが、私が意識して心がけてきたことを、3つほどお話をさせていただきます。

一つ目は

歴史に学ぶということです。温故知新（古きを訪ねて新しきを知る）です。いままでに、日本の歴史上で優れた偉人はいっぱいありますが、なかでも「渋沢栄一さん、松下幸之助さん、稲盛和夫さん」の三人の生き方や考え方は皆さんにも非常に役に立つことと思います。

一人目は「日本の資本主義の父」と言われている「渋沢栄一」さんです。

明治時代に、第一国立銀行（今のみずほ銀行）や地元の七十七銀行をはじめ500を超える企業を作り上げた人です。

「論語とそろばん」という話は有名です。

これは、自分だけが儲かればいいということではなくて、儒教の精神を持って、利益を上げる。その上に国を富ませよう。みんなのお役に立とうという崇高な気持ちで、結果的には近代日本を創ってくれた方なのです。

「正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することはできない」という言葉を遺しております。

「渋沢栄一」さん、皆さんもその生き方を参考にされたいと思います。

二人目は「商売の神様」と言われた「松下幸之助」さんです。

松下幸之助さんは、小学校しか出ていないのですが、実社会に出てからいろいろ苦勞をされて、世界的に有名な「松下電器産業（今のパナソニック）」を作り上げた方です。松下さんは、とにかく世のため人のためになりたい、皆さんに豊かな生活をしてもらいたいということで電化製品を作ることに一生懸命に取り組みました。アメリカからいろんな電気製品を買ってそれを分解して、さらに良いものを作り、皆さんのお役にたつようにとがんばった人です。あまりにもマネをするので「マネシタ産業」と言われるくらいでした。松下さんは、すべて自分のため、そして儲かればいいということではなく皆さんに文化的な生活をしてもらいたい、また皆さんが喜ぶ姿を見たがために一心に頑張った人です。

また、人間の生き方の基本は「正直に生きる、素直に生きる」ことが大事と言っておられます。

三人目は、「経営の神様」と言われている稲盛和夫さんです。

あの方も、創業時は4、5人の小さな会社で、京都市内の原町というところで物置の一室を借りて始まったんだそうですが、その当時からミカン箱の上に上がって、わずか4、5人の社員を前に「俺は、まず原町一になる。その次は京都一になる、その次は日本一になる。日本一の次は世界一になる」そんなことを言っていたのだそうです。

稲盛和夫さんの「生き方」という本、今、相当売れていまして、その本を見た中国の北京大学から、ぜひ稲盛さんに来てほしい、学生に教えてほしいと言われ、中国に行って学生を相手に講演をしているそうです。中国は儒教の国ですから本来は日本より優れていると思うのですが、稲

盛さんの人を思いやる精神は素晴らしいと好評です。北京大学は日本での東京大学みたいに優秀な大学なのですが、儒教の本場しかも北京大学から要請されるということはすごいことです。

三人に共通していることはいつも「正しい心」と「利他の心」です。いくら儲かっても利益を独占するなどということではなく、国家や国民の皆さんがどうしたらよくなるかということに専心されている崇高な心の持ち主です。

そして、いつでもだれにたいしても誠実に、謙虚に接していることです。

学生の皆さんも、そういった信念を持って努力をすれば、幸せな人生につながり、いずれ世の中から必要とされる人になれるのではないかと思います。

二つめは

人間力を高めることです。

私たちは毎日いろんな人に出会いますが、嫌われて成功している人はいないと思います。好かれることが大事でイコール人間力だと思います。

人間力に優れていればいるほど誰にでも好かれ、幸せもついてくるのだと思います。

好かれるということは、合わせて運もついてくるような気がします。

ということを見ると、どうすれば好かれるかということを考えればいいのかなと思います。

私も時折若い社員にお話することがありますが、他の人に好かれるためには

まず「寛大」な気持ちを持ちなさいといいます。よく人の失敗を責めるとか、あるいは人を悪く評価するという人がいますが、そういう人は嫌われます。失敗や欠点があっても、大きな目で見てやる、そして育ててやるというような大きな気持ちを持つことが大事です。

それと「勤勉」、まじめ。これは、だらしない生活とか、いつも適当なことをやったら誰も信用してくれません。期待もされません。一生懸命にまじめにやるのが皆さんからの協力や信頼を得るようになります。

それと謙虚さです。控目にする。へりくだるという姿勢。人に好かれる大事な要素です。謙虚な人で失敗している人は見受けられませんが、反対に横柄で、傲慢な人は嫌われ失敗もします。私の周りにも、過去にたいへん成功して有名になった方もいっぱいおりますが、いつの間にかウサにもならなくなったひとが数多くおられます。

それは何かというと、成功した後で失敗している人に共通していることは、しだいに人を見下すようになり、態度も大きくなります。そうすると、人は離れますし、今まで協力してくれた人も協力しなくなります。成功や不成功関係なくいつも頭の低い人は誰からも好かれ人生の成功につながります。

それと、まこと「信」、信用の信ですけれど、信というのは「人偏に言う」と書きます。それは言った以上はやり通す、守るということです。約束をした以上、時間でも何でも守らないと「あれはだめだ」とあてにされなくなります。

それと、「仁徳」の人、思いやりのある人は当然人から好かれます。俺が俺がと、俺さえよければという人も見受けますが、嫌われます。

「恕」という字がありますが、これも思いやり、許す心です。大したことでなくてもすぐにカッとなる人がいますが、そういった人はいつのまにか相手にされなくなります。それと「情」情け。人に対して情けをかけないような「自分さえよければ」の精神ではだめです。昔からの言葉に「情けは人のためならず」という諺がありますが、どういう意味なのか今の若い人に訊いてみると「情けをかけるとその人のためにならないから、情けはかけないほうがいい」という返事が返ってきます。

「情けをかけるということはその人のためになるばかりでなく、自分も情けをかけられることにもなりますよ。だから人に対して情けをかけなさい。人に対して優しさを持ちなさい。そうすると人に好かれるし、成功にも幸せにもつながります」ということを言って聞かせます。

もう一つは

「儲け」です

人によっては、儲けの話をするとうる人がいますが、資本主義の世の中、儲けからなくて事業を永続している会社はありません。儲かるからこそ税金を払い儲かるからこそ給料も払えるのです。松下幸之助さんは、「赤字は社会悪、倒産は犯罪だ」といっておられます。

どんな会社でも儲けるために工夫をし、より良い商品を作り社会のためになるよう努力をしているのです。「儲け」という漢字を分析すると、信+者となります。信じていただける者が多ければ多いほど利益が上がります。儲けが続くということはお客様に信用をしていただき、満足していただいている証なのです。

ユニクロさんは、最初は「安かろう、悪かろう」といううわさも出ていましたが、今では世界に通用するブランドです。ユニクロさんの会社に入っていくと、一番目に付くところに「儲」という一事だけの額を掲げているそうです。会社の究極の目的は、何と言ってもお客様から信頼され、支持され、その結果として利益を出し税金を払い社員の皆さんにも還元することだと思います。

儲けを続けるということは商品を絶えず改善し進歩し、お客様から満足をして頂き支持されている結果です。

儲けることは決して悪いことではありません。社会の発展にもつながります。皆さんも社会に出たら、どうしたら儲けを出せるか、そして世の中の発展に寄与できるかを心掛けていただきたいと思います。

以上、日頃心がけていることをお話ししましたが、「運は自ら作る」その為には「好まれる社会人」を目指して下さい。

これから社会に出られる学生の皆さんにいくらかでも参考になれば幸いです。

最後までご清聴ありがとうございました。